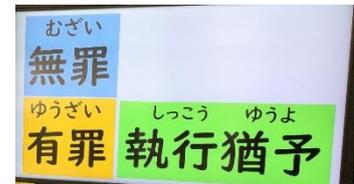


「 模擬裁判（裁判員制度）」 1年社会科



1年生の社会科では、12月20日（火）に、大村さくら法律事務所の曾場尾雅宏弁護士による法教育セミナー（裁判員制度）の学習を行いました。

『現場は喜々津駅待合室。傘で頭を殴って相手の頭にけがをさせた』という架空の傷害事件を想定し、裁判官、弁護士、検察官役を生徒が、被告人、目撃者、被害者役を教師が担当して、模擬裁判が始まりました。裁判の流れの場面ごとに、曾場尾弁護士が補足説明をしてくださいました。生徒は事件の概要や裁判の流れ、それぞれの発言内容が良く分かった様子でした。

裁判の一連の流れが終了すると、どの生徒も裁判員として考える立場となり、「刑務所に入るか?」「入らないか?」を考え、発表しました。被告人の印象も、裁判の前後では印象が変わったという生徒が多くいました。



裁判員（生徒）へ意見を聞く弁護士さん



あなたは、裁判後、被告人をどう思いましたか？

被告人質問や証人尋問の場面



- <犯人の印象について>（一部抜粋）
- ・「はじめは危険な人だと思った」
  - ・「また同じことをするかもしれない」
  - ・「裁判が終わると、印象が変わった」
  - ・「どちらも悪い」
  - ・「被告人もかわいそうな人だ」
  - ・「反省していたので、もう悪くない人」

